

Title	書字方向が定着した背景についての考察 --中国語、ヒンディー語、英語--
Author(s)	佐伯, 和香
Citation	デザイン学論考 = Discussions on studies of design (2019), 15: 82-86
Issue Date	2019-02
URL	http://hdl.handle.net/2433/237379
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

書字方向が定着した背景についての考察

—中国語、ヒンディー語、英語—

Consideration about the background of vertical writing and horizontal writing establishment

-Chinese, Hindi, English-



佐伯 和香

SAEKI, Waka

京都大学大学院経営管理教育部サービス&ホスピタリティ専攻修士1回生
京都大学デザイン学大学院連携プログラム6期生

1. はじめに

私の趣味は文字を見ることだ。特にこの文字が好きという訳ではなく、例えば平仮名や、アルファベットなど、どの文字も等しく好きである。そのため、多くの文字を見られる図書館や本屋などへよく行くのだが、そこで気になったことがある。日本語で記されている本の背表紙には、縦書きで題名が書かれているが、その表紙は横書きで記されている。そして、その中身は縦書きで書かれていることが多く、講義で配布されるレジュメは、横書きで書かれていることが多い。また、店舗の看板は、縦書きの文字、横書きの文字を同じぐらい目にする。英語で書かれているものはどうだろうか。英語で記されている本の背表紙は、横書き、横書きで書かれている文字を縦方向に書いたものが多い。しかし、店舗の看板は、日本語で書かれているものと同様に、横書きと縦書きの文字が存在する。

縦書きと横書きは、いつ何に対して用いられるかは明確に決められていない。しかし、日本語は基本的に縦書きであり、英語は基本的に横書きである。文字の書かれる方向を書字方向というが、これがなぜ定着したかについて現在明確には分かっていない。このような書字方向はなぜ決まったのであろうか。

2. 書字方向の背景を考察する上での仮定

私が調べた限り、どの文字が最も使用されているかについての資料がなかったため、ここでは人口が最も多い国、上位3ヶ国で主に用いられる文字について検討したいと思う。また、ある文字を用いて書かれた書物の中で、縦書きが多い場合はその文字は基本的には縦書きとし、横書きが多い場合はその文字は基本的には横書きとして考察する。International Monetary Fundによれば、2018

年度の最も人口が多い国上位3ヶ国は、中国、インド、アメリカである。これらの国で主に用いられる文字、中国語、ヒンディー語、英語について、縦書きあるいは横書きが基本的な形として定着した背景について考察する。

3. 中国語を書く時の基本が縦書きとなった背景

現在中国で使用されている文字である漢字は、主に亀の腹甲に刻まれた、殷代後期の文字である、甲骨文字が起源であるⁱⁱとされる。漢字は、多くの書物では縦書きで書かれるため、縦書きが基本形として定着した背景を考察する。

甲骨文字は、現在の漢字とは形が異なるものの、象形・指示・会意・形声があり、構造的には同じ文字ⁱⁱⁱである。これらは占卜に用いられ、その経緯と結果が甲骨上に刻まれたⁱⁱ。亀の腹甲は、縦長であり、横書きで経緯と結果を刻むよりも、縦書きで経緯と結果を刻む方が、何度も改行する手間が省けるため、筆記が容易であったと筆者は考えている。また、甲骨文字は全体的に縦長の文字が多く、ある文字を書く際に下に線を伸ばした後、隣へ新しい文字を書くよりも、その伸ばした線の下に新しい文字を書く方が、文字を書く動作が容易であったと考えられ、そのため縦書きになったとも想像できる。

亀の甲羅の主成分は、カルシウムやたんぱく質が複合されたものであり、甲羅の強度は高いとは言えない^{iv}。そのため、甲羅に何らかの衝撃が加わると割れやすくなり、縦方向に割れたり^v、横方向に割れたり^{vi}する。甲羅が両方向に割れることから考えると、甲羅に書く際に書きやすい方向であった、という理由から縦書きで書かれた訳ではないと筆者は考えている。



pic.1 甲骨文字

出典：地球ことば村 http://www.chikyukotobamura.org/muse/wr_easia_24.html

ⁱ International Monetary Fund, <https://www.imf.org/en/Publications/SPROLLS/world-economic-outlook-databases#sort=%40imfddate%20descending> (2019年1月30日閲覧)

ⁱⁱ 大城道則編 (2018) 『古代文字学入門』 河出書房新社

ⁱⁱⁱ 落合淳思 (2008) 『甲骨文字に歴史をよむ』 (筑摩書房)

^{iv} Discovery, <https://www.discoverychannel.jp/0000006457/> (2019年1月30日閲覧)

^v 日向健一 (2010) 『珍獣の医学』 扶桑社

^{vi} 希望ヶ丘動物病院の院長, <https://ameblo.jp/kibougaoka-ac/entry-12184333834.html> (2019年1月30日閲覧)

4. ヒンディー語を書く時の基本が横書きとなった背景

デーヴァナーガリー文字は、主にヒンディー語で用いられる文字であり、インドの憲法では、連邦レベルの公用語ヒンディー語の表記文字として定められている^{vii}。ナーガリー文字とも呼ばれ、ブラーフミー文字が起源であるⁱⁱとされている。デーヴァナーガリー文字（ナーガリー文字）は主に横書きで表記されるため、横書きが定着した背景について検討する。

最初期のブラーフミー文字は、アショーク王碑文に刻まれているⁱⁱ。アショーク王は法勅を刻んだアショーク王柱を各地に建てており、そのうちの11の石柱にブラーフミー文字が書かれているⁱⁱ。ブラーフミー文字の形を見ると、横に長い文字が多く、書く際に下へ書いていくよりも、横に伸ばした線の続きで横に書いていく方が容易であったと想像できる。また、ブラーフミー文字の形は、アショーク王によって作られた説があるⁱⁱが、アショーク王が文字を作成した際に横書きにすると決めた可能性もあると筆者は想像している。



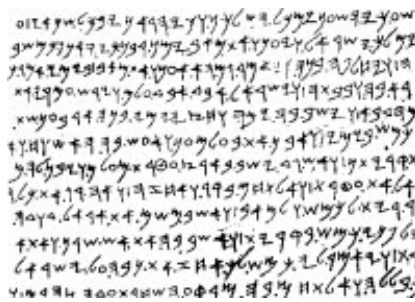
pic.2 ブラーフミー文字

出典：地球ことば村 http://www.chikyukotobamura.org/muse/wr_sasia_22.html

5. 英語を書く時の基本が横書きとなった背景

英語では現在アルファベットが使用されるが、元はフェニキア文字から派生した文字であると考えられているⁱⁱため、ここではフェニキア文字について検討する。

アヒラムの石棺に刻まれたものが現存する最古のものであり、フェニキア文字は主に石に刻まれているⁱⁱ。フェニキア文字は右から左へ読むⁱⁱⁱが、これはヒエログリフから引き継がれたもの^{viii}である。ヒエログリフは右から左へ読むものが多い^{viii}。この理由としては、左手に鑿、右手に鎚を持って聖刻文字を石盤に刻んだため、前に刻んだ文字が左手に隠れないようにするために右から左の方向へと進んだ^{viii}と考えられている。また、石工が左手に鑿、右手に鎚を持っているのは、その石工が右利きであったため^{viii}だと考えられている。現在右利きの人間の割合は約9割であるが、ネアンデルタール人



pic.3 フェニキア文字

出典：地球ことば村 http://www.chikyukotobamura.org/muse/wr_middleeast_9.html

^{vii} 町田和彦 (2011) 『世界の文字を楽しむ小辞典』 大修館書店

^{viii} 西山豊 (2008) 「数学を楽しむ／書字方向の教理」、『理系への数学』2008年10月 Vol.41, No.10, 13-17、現代数学社

も右利きが圧倒的に多かった^{ix}とされている。古代より右利きが多い理由として、人の心臓は左にあるため、相手を攻撃する剣は右手に持ち、自分を守る盾は左手に持つから^x、言語の成立により左脳が急速に発達したことで、左脳が司る右半身優位になったから^{xi}、が主に挙げられる。フェニキア文字もヒエログリフと同様に石に刻まれており、同じ理由から横書きになったと筆者は考えている。また、フェニキア文字は、主に横方向に長い文字であり、そのためある文字を書く際に線を横に伸ばした後、その続きの文字を隣に書く方が、続きを下へ書くよりも書く動作が容易であったのではないかと想像している。

6. おわりに

それぞれの文字では、縦書き、横書きのどちらかが主流である。特に本においては、その文字の主流の方向でない書き方をしているものは少ない。縦書き、横書きが主流になった契機は何であったのか。主に縦書きである漢字の起源となった甲骨文字、主に横書きであるデーヴァナーガリー文字の起源となったブラーフミー文字、主に横書きである英語の起源となったフェニキア文字について考察した。

- ・甲骨文字が縦書きになった理由は、記載する内容の多さから、縦長の甲羅に記載する際に改行する手間が少なかった、文字の形が縦長であり、縦に書く方が横に書くよりも書きやすかったのではないかと筆者は考えた。
- ・ブラーフミー文字が横書きになったのは、文字の形が横に長かったこと、文字開発者とされるアショーカー王が横書きにすると決めた可能性があることが想像できる。
- ・フェニキア文字が横書きになった理由は、読み方がヒエログリフから引き継がれたことを参考にすれば、石へ文字を刻む際に横へ書く方が前の文字を確認できて書きやすかったこと、文字の形が横長なため横書きにする方が縦書きにするよりも自然であったことが想像できる。

しかしながら、甲骨文字、ブラーフミー文字、フェニキア文字がそれぞれ縦書き、横書きとなったのは、その文字を書いていた人達が何となく文字を縦に、あるいは横に、書いたことが徐々に一般的な書き方になり、そこから文字を書く方向が定着した可能性も筆者は考えている。

^{ix} NATIONAL GEOGRAPHIC、https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/16/102600404/?ST=m_news (2019年1月30日閲覧)

^x 日本医師会ホームページ、https://www.med.or.jp/komichi/bodycolumn/bodycolumn_01.html (2019年1月30日閲覧)

^{xi} 日刊ゲンダイ、<https://www.nikkan-gendai.com/articles/view/life/158898> (2019年1月30日閲覧)

「デザイン学」への問い

- + 同じ文字でも縦書き横書きで与える印象が異なるのはなぜなのだろうか。
- + 最も縦長の文字、最も横長の文字はどの文字であるだろうか。